

診療科目 ● **神経内科学・脳卒中医学**

プログラム責任者：田中 章景

附属病院	
主任教授	田中 章景
教授	鈴木 ゆめ
准教授	児矢野 繁
講師	土井 宏
助教	釘本 千春、上木 英人、中江 啓晴、多田 美紀子、東山 雄一、田中 健一
附属市民総合医療センター	
准教授	上田 直久
講師	岸田 日帯
指導診療医	木村 活生

本プログラムの特徴	
<p>当科は大学病院として地域の開業医や関連施設などから幅広い神経内科疾患を受け入れていることが大きな特徴です。たとえば、多発性硬化症や視神経脊髄炎などの脱髄性疾患、Alzheimer 病や前頭側頭型認知症などの認知症疾患、Parkinson 病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患、脳炎、髄膜炎などの感染性疾患、てんかんや頭痛などの機能性疾患、各種末梢神経障害、筋疾患、その他多岐にわたります。</p> <p>脳血管障害に関しても、年々治療が進歩している領域であり、脳卒中科として別のベッドを持ち、軽症な症例から各種合併症を持った重症例まで対応しています。</p> <p>筋電図や神経生検、筋生検などの基本的な検査手順の習得もできる体制を整えており、専門医取得に必要な体制を整備しております。</p>	
目 標	
一般目標	
神経内科疾患を幅広く経験し、神経内科専門医を取得するために必要な知識と経験を得る。	
到達目標	
<p>卒業後3年次：入院患者5-10名の担当医になり指導医の下で神経学的診察法、検査、治療計画を立て診療方法を習得する。CT、MRI、RIなどの画像の読影を習得する。脳血管障害はとくに超急性期治療を行えるようになる。全身管理を必要とする救急疾患を扱える。神経・筋生検など、神経内科的手技を指導医の下に習得する。</p> <p>卒業後4年次：更に正確性、習熟度を高め、テーマを選んで臨床研究や基礎研究に着手する。各種神経学会（総会、地方会）で発表を行う。</p> <p>卒業後5年次：研究の総まとめを行う。神経学的診察、手技について主導的に行い、指導ができる。</p>	
目標とする学会認定専門資格	
日本内科学会認定内科医	初期臨床研修2年間（その内、内科臨床研修6か月間以上）+ 教育病院（内科臨床大学院含む）または教育関連病院での「内科後期臨床研修1年間（12か月間）以上」=計3年間以上
日本神経学会専門医	初期研修を含む臨床研修歴が6年以上あり、本学会正会員歴を3年以上有すること。 日本神経学会が認定した教育施設、准教育施設および教育関連施設で神経内科研修を受けていること。 (1) 教育施設で3年以上 (2) 教育施設2年以上、かつ准教育施設を含めて合計3年以上 (3) 教育施設2年以上、かつ准教育施設・教育関連施設を含めて合計4年以上 (4) 教育施設2年未満の場合、准教育施設を含めて合計4年以上（准教育施設のみでの4年間を含む）
<p>附属病院および附属市民総合医療センターは、以下の施設に認定されています。</p> <p>日本内科学会認定教育施設（認定内科医、総合内科専門医）</p> <p>日本神経学会認定教育施設（神経内科専門医）</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院（脳卒中専門医）</p> <p>日本認知症学会教育施設（認知症専門医）</p>	

主な協力病院
国立病院機構横浜医療センター、横浜州市市民病院、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜共済病院、藤沢市民病院、茅ヶ崎市立病院、平塚共済病院、帝京大学医学部附属溝口病院、横須賀市立市民病院、神奈川県立足柄上病院、秦野赤十字病院、パシフィックホスピタル

診療科の実績
<p>専門医養成を目的として協力病院とのローテーションを含め幅広い疾患を扱います。附属病院には教授以下12名、附属市民総合医療センターには4名の日本神経学会専門医がおり、指導層の厚さは全国有数といえます。病例は広く神奈川県内から集中してくるため、疾患の種類は多く、神経内科特有の変性疾患のみならず、神経救急処置を必要とする感染性、炎症性疾患も多く扱います。CJDサーベイランスなどの厚労省関連研究、治療薬の治験なども行い神経内科の診療・治療の将来に貢献しています。下記が主な研究テーマになります。</p> <p>[1] 神経変性疾患の疾患モデル作成に基づく病態抑止療法の開発 [2] 網羅的ゲノム解析に基づく神経疾患の病因・関連遺伝子の探索・同定 [3] 遺伝性神経疾患の新規遺伝子診断法の開発 [4] 神経疾患の臨床的高次脳機能解析 [5] 神経変性疾患の病理学的解析に基づく病態解明 [6] 免疫性神経疾患における臨床像と治療反応性の解析 [7] 神経疾患の先端的画像・神経生理学的研究</p> <p>また、関連病院は神奈川県全域に多く存在し、全国の大学の中でも有数の充実度を誇りますが、今後の更なる増加も確実です。</p>

指導医から一言
<p>通常内科領域の病棟診療は主治医制の診療体制をとっているところが多いですが、当医局はグループ制の診療体制をとっており、毎日グループの医者が意見交換をして診療を進めています。若い先生には神経内科の専門医として必要なトレーニングを積める様に、大学病院として必要十分な環境を整えています。今後、神経内科医の果たす役割は大きくなり、多くの若い先生方の力が今必要とされております。ぜひ一緒に神経内科医として仕事をしていきましょう。（医局長 上木 英人 平成11年卒）</p> <p>当科は脳卒中から変性疾患まで非常に幅の広い領域を扱います。まだまだ未知の疾患も多いため、医師の上下関係もなく一緒に勉強しながら診療しています。とても仕事しやすい環境だと思います。是非一緒に頑張りましょう。（准教授 児矢野 繁 平成4年卒）</p> <p>神経内科は大学病院のみならず、全国の一般病院でも非常にニーズが高い領域です。共に勉強し多くの患者さんのお役に立てるように頑張りましょう。（附属市民総合医療センター 部長・准教授 上田直久 平成8年卒）</p>
シニアレジデントからのメッセージ
<p>大学病院でも関連病院でも経験豊富な上級医の方々に気軽に相談できるので、若手は安心して診療に望めます。もちろんガイドラインに沿ったスタンダードな診断、治療を学ぶこともできますし、未知の疾患に対して皆で悩みながら論文検索などを行い神経内科の最先端を垣間見ることできます。また、治すことができない疾患もありますが、その中で医療者として何ができるか、患者さん・ご家族の思いは何か、などケアも学べます。いっしょに楽しく学んで成長していきましょう。（附属病院シニアレジデント 平成24年卒）</p> <p>私は初期研修で福浦（大学病院）と浦舟（センター病院）の両方の神経内科で研修させていただき、入局を決めました。急性期・慢性期の病気を両方見ることができ、かつ全身にわたる診察などができる。そんな内科的にも幅広い所をみられるのも魅力的で神経内科に決めました。今現在は、変性疾患や脳卒中などを中心に診療している日々です。変性疾患は不明な点も多くこれから徐々に病態が解明されていく面白い分野だと思いますし、脳卒中も急性期の治療で劇的に改善するやりがいのある分野だと思います。全然優秀ではない自分ですが、周りの先生方は指導熱心な先生ばかりで、その都度出てくる疑問点や困ったことにも日々色々なご教授をくださいます。医局の雰囲気もとても良いので皆様一度是非見学にいらしてください。沢山の仲間が日々一緒に楽しく働くことができることを楽しみにしております。（附属市民総合医療センターシニアレジデント 平成25年卒）</p>

診療科のホームページ URL	
http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~neuro/	
担当者・連絡先	
<p>横浜市立大学附属病院 神経内科医局 上木 英人（医局長） 石戸 淳一（レジデント係） 土橋 裕一（レジデント係） 澁谷 真弘（レジデント係）</p>	<p>045-787-2800（代表） 045-787-2725（直通） 内線 6479 neuro@yokohama-cu.ac.jp 内線 5263 内線 6744 内線 5263</p>
<p>横浜市立大学附属市民総合医療センター 上田 直久（部長）</p>	<p>045-261-5656（代表）</p>